

指定管理評価表(尼崎市立立花駅第1～第7、立花駅南地下及び武庫之荘駅第1自転車駐車場施設)

平成31年3月31日現在

施設概要	立花駅第1～第7、立花駅南地下及び武庫之荘駅第1自転車駐車場施設(尼崎市立花町1丁目ほか) 利用時間:0:00～24:00ほか(年中無休) 施設設置目的:自転車利用者のための駐車施設(駅周辺における放置自転車の防止) 事業内容:自転車駐車場の管理運営			
指定管理者の名称	尼崎中高年事業株式会社・公益社団法人尼崎市シルバー人材センター共同事業体			
指定期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日			
業務概要	尼崎市立立花駅第1～第7、立花駅南地下及び武庫之荘駅第1自転車駐車場施設(9箇所)の維持管理業務			
利用状況等	項目名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
	利用料収入	227,406,550 円	232,995,450 円	234,292,850 円
	1日平均利用者数	8,323 人	8,418 人	8,460 人
	利用率	100.0 %	101.1 %	101.6 %
所管課・所管課長名	都市整備局土木部放置自転車対策担当・和佐田 洋			
評価対象期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日			

評価項目	説明	評価	評価コメント
1 サービスの質の維持・向上		A	・既設の自転車ラックをはずしたり、空きスペースを利用し、大型自転車等の収容場所を確保して利便性の向上に努めた。 ・レンタサイクルや電動空気入れの配備など引き続き利用者への利便性向上に努めた。 ・トライやるウィークの受入れ、子ども110番の登録をした。
自主事業・指定事業	計画に沿って、積極的に自主事業・指定事業に取り組んでいるか		
サービス向上	サービス向上の取組みがされているか		
施設利用者数	施設利用者の掘り起こしがされているか		
利用者要望の把握	利用者要望の把握がされているか		
事業計画性、透明性	事業が計画的に、かつ透明性を確保して実施されているか		
住民・利用者の参画	住民または利用者とのパートナーシップを推進しているか		・トライやるウィークの受入れ、子ども110番の登録をした。
2 適正な施設の管理		B	・立花駅南地下及び武庫之荘駅第1に防犯ベルを設置した。 ・LED照明器具への順次交換を実施し、設備改善に努めた。 ・各研修等を実施し、従業員等の資質向上に努めた。
施設保守・管理	施設の保守、管理が適正に実施されているか		
職員体制	合理的な配置か、責任体制が整った配置か		
危機管理	事故・緊急時の体制が十分に整備されているか		
個人情報管理	個人情報の管理が適正であるか		
職員研修	職員研修が十分に実施されているか		
3 収支・経費節減		B	・使用料収入、修繕実績、自主事業実績については、例月の報告で適切に管理されている。
収支状況	収支の状況が適正かつ良好であるか		
経費節減の取組	経費節減の取組みがされているか、		
4 指定管理者の経営状況等		B	・適正な会計手続きがなされており、経営状況は良好である。
会計状況	適正な会計手続きがなされているか(監査報告書等による)		
経営状況	経営状況は良好か(貸借対照表、損益計算書等による)		
5 その他		A	・適切に管理されている。なお、備品台帳については市と調整し、他の指定管理者と統一を行っている。
文書等の管理	文書類、帳簿、備品、資料等が適切に管理されているか		
評価の実施	内部評価を実施しているか		

指定管理者選定に係る事業計画書の主な取組内容	左記に関する取組状況とその取組に対する評価
・自転車駐車場の収容台数の増加 ・自転車駐車場における適切な管理と利便性の向上 ・地域雇用と高齢者雇用	・既設のラックをはずすなど工夫して駐車スペースを確保し、大型車等の受入台数増に取り組んでいる。 ・近隣商業施設との合同消防訓練や防犯ベルの設置等、安全管理への意識が高く自転車駐車場の適切な管理に努めている。 ・平成27年度から引き続き地域雇用、高齢者雇用に努めている。

総合評価	総合評価の理由、今後の課題等
B	・大型車等への対応や防犯ベルの設置など利用者サービス及び施設の安全管理を積極的に努めており高く評価できる。 ・トライやるウィークの受け入れ、子ども110番の登録など地域と協力し施設を活用した取り組みは評価できる。 ・放置自転車削減に尽力し、自転車駐車場管理運営と放置自転車対策事業の一体的委託として高く評価できる結果となった。 ・台風等災害時においても通常通り営業し、利用者の不便とならないように施設管理に努めたことは評価できる。 ・老朽化する施設の維持管理が今後の課題となる。

※ 評価は、A～Eの5段階評価とする。

※ 確認調査の結果をチェックリスト等に記入する。更に1～5の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

※ A:非常に良好である又は非常に成果があった。 B:やや良好である又はやや成果があった。 C:取組状況の水準が普通である。

D:やや改善の余地があった。 E:多くの改善すべき点が見受けられる。